

学校教育目標		目指す子どもの姿(中・長期的目標)		総合評価		
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども		1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(自主性) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 進んで体を鍛え 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気づき 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)		・挨拶を自分から進んでしようとする児童が少しずつ増えている。 ・清掃は、高学年を中心に、「時間いっぱい」「無言で」「すみずみまで」きれいにしようとする姿があり、低学年にも広がっている。 ・学習では、基礎基本を定着させる時間を確保し、学習の理解が高まっている。 ・各学級で、自他を認め合う時間を設定し、温かい学級づくりの基礎となる取り組みを行っている。		
今年度の重点目標				評価	成果と課題 改善策・向上策	
【なるほど！そういうことか！】 学力向上の基盤をつくる(知)				B	・Chromebookの積極的な活用が各学級で進んだ。今後は、Chromebookをどのように活用したら学力向上につながるかを考えていきたい。	
【聴こう みがこう 心と言葉】 豊かな心を育てる(徳)				B	・互いを認め合える学級集団が育ってきている。今後は、学年内や異学年との交流活動を展開していきたい。	
【身体みがきで伸ばすぞ体力】 健康な体を育む(体)				C	・コロナ禍のため、運動や遊びに制限をかけることができなかった。教室内や自席でできる運動遊びを取り入れていきたい。	
評価【 A:達成できた B:おおむね達成できた C:やや達成できなかった D:達成できなかった 】						
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習指導	教育活動	1 聴く・伝える	・子どもたちが興味関心を持ち、聴こうとする学習提示があったか。 ・話し合いの時間が確保され、友の意見に耳を傾け、自己の考えをさらに深められる機会となっていたか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えるため、具体的にわかりやすい伝え方の指導をしたか。	B	・実物、拡大図、動画等、学習の提示については、それぞれの教室で工夫して実践されている。 ・話し合いでは、発表の仕方のスキルを身につけること、何でも言える学級の雰囲気づくりが必要である。年度後半になり、どの学級でも徐々に高まりつつある。	・子どもたちが聴きたくなるようなものの提示の仕方や、張りのある教師の声を、さらに意識して研修を積み、子どもたちの学ぶ意欲を高めてく。 ・発表の仕方をさらに丁寧に指導し、話し合いの時間を十分にとっていく。
		2 基礎基本の確実な習得	・学習のねらいを明確とするため、わかったこと、できたことを振り返る時間が位置づけられていたか。 ・ドリルの時間の内容が基礎的事項の定着につながったか。 ・1時間の中に、書くことを位置づけたことで、自分の考えが明確になっていたか。	B	・授業後半では、習熟の時間が設定され、基礎基本を定着させる時間となっている。 ・各学年の実態に応じて、ノートや記録用紙に書く時間の確保も行われている。さらに、自分の考えを明確に書けるように指導を続けていきたい。	・漢字練習、計算練習を中心に指導を繰り返し、子どもたちが、「できた」「できるようになった」と実感できるように根気強く取り組んでいく。 ・朝のドリルの時間も学年の実態に応じて、さらにシステム化していく。
		3 たくましい体づくり	・校庭や体育館で積極的に体を動かし遊び、体を動かすことによるよさを体感させる指導をしたか。	C	・コロナ禍のため、休み時間や授業で、自由に遊んだり友だちと交流したりすることができなかった。子どもたちにとっては、ストレスになっていたと思われる。 ・リモートでの全校体育では、それぞれの教室でできる体幹トレーニングに加え、リズムトレーニングの要素も取り入れ運動の紹介をした。	・休み時間の校庭や体育館の解放に向け、約束(手指の消毒の徹底など)をしっかりと作り、自由に外に出て遊べる環境の整備をしていく。 ・朝の会の時間などに毎日少しずつ取り組むことのできるトレーニングを入れる習慣を作る。
		4 心を磨く清掃	・清掃の仕方の指導をし、定着しているか。 ・無言で行うことの価値を伝えたことで、無言で集中し、責任を持ってやり遂げようとしていたか。 ・自分の気づきが生かされた清掃とするため、自分の気づきを振り返る機会が保障されていたか。	B	・清掃の流れやめあてが各学級で共有されており、進んで取り組む姿が多く見られる。 ・「黙って」「時間いっぱい」「すみずみまで」の清掃が高学年から低学年に広がってきている。	・さらに自分の気づきを大切にしながら自主的に清掃ができるように、振り返りの時間をしっかりと確保していきたい。 ・教職員も常に児童といっしょに清掃活動を行い、良い場面を取り上げ、広めていきたい。
生徒指導	生徒指導	1 響くあいさつ	・子どもたちが自分から挨拶をするように教師が率先して挨拶を投げかけたか。	B	・「まずは教師から」を念頭に、子どもたちへ積極的に挨拶をした。 ・少しずつではあるが、自主的に挨拶ができる児童が増えてきた。 ・挨拶のできる児童と、なかなかできない児童との二極化がある。	・引き続き、「まずは教師から」を念頭に、積極的な挨拶と声掛けをしていく。 ・挨拶の意味やすばらしさについて授業などで子どもたちと考える場を設け率先してあいさつをしようとする意識づけをする。
		2 人間関係作り	・人のつながりや友達関係のあり方を見つめ直す日々の学級指導、人権教育、道徳教育ができていたか。 ・日常から子どもたちのよさをクラス全体に広めようとしたか。	B	・道徳や学級活動の時間を利用して、良好な友達関係を築くための方策や温かい学級づくりができるための工夫を考えた。 ・短学活で学級や友達の言動の良さを共有する(認め合う)時間をとることができた。 ・人間関係の構築のため、自分たちのよかったところ、また、よくなかったと思うことを素直にみとめられるようにしたい。	・学級内での認め合いや、学年内での認め合いの場を増やす。 ・人権教育、道徳教育の観点からさらに人との関わりについて考える場を設ける。 ・人と共に過ごすことの意味について考える場を設ける。
学校運営	地域との連携	1 地域素材の教材化による学習の充実	・地域に出かけ、人との関わりを授業づくりに結びつけたか。 ・総合など地域学習を学年に一度は位置づけたか。	B	・感染警戒レベルが高かったため、例年のように、地域の方と関わった学習を数多く計画することができなかった。感染症対策を丁寧に講じて、低学年が学校近辺に出かけ、人・もの・ことと関わることはできた。	・感染警戒レベルを注視し、対策を講じながら、相手方と連絡を取り合い、可能な限り、地域素材の教材化を図っていきたい。
		2 キャリア教育	・地域の名人、達人を授業に招き、子どもたちが地域のよさ、人のすばらしさを感じたり、学んだりする機会となったか。 ・自分の生き方について考える素地ができたか。	B	・感染警戒レベルが高かったが、対策を講じて、地域の名人・達人と関わった学習を計画することができ、名人や達人から、技を学ぶことができた。	・感染警戒レベルを注視し、対策を講じながら相手方と連絡を取り合い、可能な限り、地域のよさ、人の生き方のすばらしさに触れる学習を取り入れていきたい。
		3 地域・PTAとの連携	・地域のボランティアの方々の力が学習に生かされたか。 ・学校便り、学年便りなどを通して、保護者の学校への理解を深めようとしたか。	B	・数多くはなかったが、地域のボランティアの方々の活動ができた。 ・週1回の学年だより、月1回の学校だよりを発行し、保護者の皆様に学校教育活動を紹介し、理解や協力を促すことができた。	・今後も、学校だより・学年学級だよりを発行し、学校教育の理解に努めていきたい。 ・地域の方々とつながりができるだけ増やしていきたい。
研修	研修	1 子どもが自ら動き出す授業を目指す	・授業公開を通して、互いの授業を見合い授業改善に取り組んだか。 ・児童の発言を大事に、学習が深まる授業に取り組めたか。	B	・主体的・対話的な学びになるよう、感染対策を講じながら授業づくりをすることができた。 ・児童と教師、児童と児童とのやり取りを大切に授業に心がけた。	・互いの授業を見合い、教師も学びあう集団でありたい。 ・これからも児童のつづやきを大切に、つづやきを拾って、授業を広めていきたい。 ・児童が活動する時間をじゅうぶんに確保する授業づくりに努めたい。